

マス用低魚粉飼料開発の現状

☆植物性原料を使って、魚粉主体の市販飼料に匹敵する摂餌性を有する飼料を開発しました。

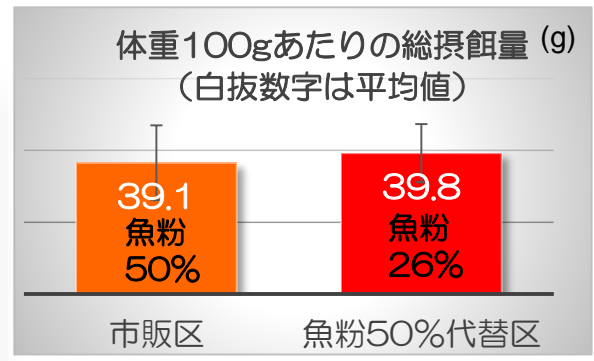
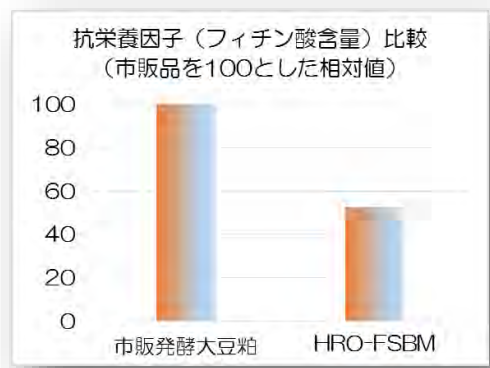
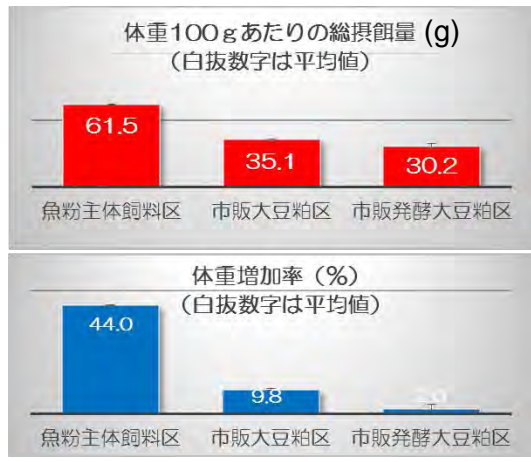
背景

- 飼料の主原料である魚粉価格が高騰し、低魚粉飼料の開発が強く求められています。
- 植物性原料には魚の栄養吸収（亜鉛等）を阻害する物質（フィチン酸などの抗栄養因子）が含まれ、阻害物質の低減処理を行わないで配合した餌では摂餌性の低下が生じるため、その克服が課題となっています。



成果

- 1** 市販の発酵大豆粕による代替では、摂餌、成長が悪化します。
- 2** HRO-FSBM（道総研発酵大豆粕）は、市販品より約4割の抗栄養因子低減を実現。
- 3** 魚粉を約5割HRO-FSBMに代替しても摂餌性は低下しません。



魚粉50%代替区は、成長も市販区に匹敵しており、今後更に長期の試験（12週間）でその点を検証する計画です。

期待される効果

- 飼料メーカーと連携し、今後2年の研究継続によりHRO-FSBMを適量配合したマス用の低魚粉飼料を開発します。
- その低魚粉飼料を飼料メーカーとともに普及を図ることで、マス養殖餌料費の削減が期待されます。

共同研究機関：食品加工研究センター・釧路水産試験場、協力機関：フィード・ワン株式会社

問い合わせ：道総研 さけます・内水面水産試験場 電話：0123-32-2135